

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和4年度 第5回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和5年1月11日(水) 19:00~20:05
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 退院支援・医療介護連携部会より 2 在宅医療コーディネーター部会より 3 多職種連携部会より 4 ICT 部会より 5 在宅医療支援センターの報告について 6 その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	17人 吉澤委員長、大原職務代理、井上委員、大橋委員、片山委員、北代委員、香西委員、田中邦委員、辻委員、永岡委員、橋本委員、花房委員、林委員、古川委員、松本委員、三橋委員、和田委員
関係者	市医師会事務局(5人) その他: 医師会(伊藤会長、和田副会長、香西副会長、西口理事、塩見理事、井垣理事、香川理事)、県長寿社会対策課(加古課長補佐)
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係    839-2346 在宅医療支援センター    839-2344 介護保険課    839-2326 地域包括支援センター    839-2811 保健対策課 地域医療対策室    839-3805

協議経過及び協議結果	
<p><b>1 退院支援・医療介護連携部会より</b> (Q委員より報告)</p> <p>【今年度第3回目の医療介護連携ミーティング開催について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3回目の開催については、他の行事も立て込んでおり、今年度開催せず、次年度に入って、4月・5月あたりで開催したらどうか。</li> <li>・テーマ: 困難事例について考える。薬剤についてとりあげたい。今後、準備を進めていく。</li> </ul> <p>A委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2~3月の行事が立て込んでおり、また、地域連携室のミーティング開催も予定している。</li> </ul>	
<p><b>2 在宅医療コーディネーター部会より</b> (C委員より報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回目の養成研修会を12/6に開催した。</li> </ul> <p>テーマ: 医療処置が必要な療養者の場の選択支援とケアコーディネーション</p> <p>講 師: 綾田医師、山崎訪問看護師、原薬剤師</p>	

内 容：別紙資料2を参照

A 委員

受講状況はどのようになっているのか。

C 委員

1名欠席者いたが、DVD視聴によりレポート提出にて対応する。

A 委員

引き続き、養成研修の開催をお願いしたい。

### 3 多職種連携部会より (B委員より報告) ※この後に、部会開催

- ・2/11(土・建国記念の日)、午後1時～4時 ハイブリッド形式にて開催  
全体のテーマ：「with コロナで気づいた多職種連携の底力」
- ・特別講演：武田以知郎医師 奈良県明日香村国民健康保険診療所管理者
- ・話題提供及びパネルディスカッション：  
パネリスト：医師、訪問看護師、薬剤師、介護支援専門員、通所サービス、訪問リハビリ…6名
- ・1/13(金)各委員及び職能団体宛に開催案内メール、郵送等で案内予定。
- ・1/6に武田先生を含め、パネリストも一緒に事前打合せを行った。武田先生の特別講演では、コロナ禍で、人が集まる機会が減り、地域全体が委縮し、筋力低下の状態、地域全体がフレイルに陥っている。当日、武田先生は、状況にもよるが来高される予定になっている。ぜひ、皆さんにも参加してほしい。

### 4 ICT部会より(事務局より報告)

【在宅ケア便利ナビのデータ更新】(医師会事務局より説明) (資料4-1参照)

(医療機関) 新規登録：2件 廃止：2件 登録内容の変更：2件

(訪看ケアマネタイム) 新規登録：1件 登録内容の変更：1件

A 委員

在宅ケア便利ナビを有効に活用してほしい。

### 5 在宅医療支援センターの報告について(資料5参照)

(篠原相談員より説明)

在宅医療支援センター篠原氏より、11・12月の活動報告を行う。

《11・12月分》【相談件数】11月：13件 12月：18件

《相談事例紹介》11月～12月までで4回相談があった事例

A 委員

妻の受診拒否で夫が困っており、非常に難しい問題だと思う。

B 委員

患者の意向があり、夫がその同意を得て動こうとするも、診療を拒否する場合、緊急時に困ると思う。今の段階で、ある程度主治医と相談しておくことが必要。いずれ病状が悪くなる時が来る。

C 委員

・コミュニケーションを図りにくい、理解度が低い場合など、本人が希望するところで通院等行う。本人が幸せだと思えるように、その入り口をどうするか。例えば、苦痛に対して、泌尿器科の医師から紹介してもらうのはどうか。

・信頼できる仲間づくりをすることが大切である。

#### A 委員

・今後に備えて、消化器外科、内科との連携も考えておくことが必要である。大腸がんは、腸が詰まってくると、緊急要請することがある。その時にどうするか決めておくことが大事である。

#### 医師会理事

・緊急時、どのように対処するのか、イレウスか出血のどちらかが起こる。納得させて説得する。あらかじめ考えておくことが大切。

#### A 委員

相談は、今後も続きそうなので引き続き、お願いしたい。

## 6 その他

#### A 委員

(1)12/18(日)香川県地域包括ケアシステム学会学術集会での発表をした。発表者から一言ずつ感想等お願いしたい。

#### 【在宅医療支援センターの活動報告と今後の取り組み】

支援センターを開設した当初よりも、在宅医療に関する相談内容が増えてきたが、まだ、認知されていない部分もあるので、知ってもらえるよう周知していくことが大切だと感じた。市役所内にある相談窓口の利点として、一般市民からの相談も一定数あることを伝えた。会場から地域包括支援センターとの違いを聞かれたが、地域の在宅医療を行っている医療機関の情報などを提供できる事等を挙げた。

#### 【高松市入退院支援ルールの作成・活用】

今後、ルールの見直しを進めていく。実際、使うことが大切であり、連携の手段として考えていく。

#### A 委員

今後も学会で何報も報告を重ねてほしい。

(2)高松市地域包括支援センターより報告

令和5年4月からの委託モデル事業の進捗については、2年間の受託法人が、社会福祉法人はつき会に決まり、委託契約を締結した。

(3)1/13(金)第10回 四国四市在宅 web 会議の開催について

各県の県庁所在地の医師会が、毎回議論する内容を出し合い、討議している。コロナ禍で2年ほど開催できていない。今回のテーマとして、コロナ前後での在宅医療の増減、連携ツールについて議論する予定。高松市での取り組みとして、MACの開催、高松ムービーチャンネルで、大西市長、伊藤会長、忽那医師による鼎談を収録したYouTubeの配信、介護保険主治医意見書の方式等を紹介する予定である。

(4)2/11 多職種連携研修会に委員の皆さんの参加をお願いしたい。

(5)3/19 在宅医療コーディネーター養成研修・修了式と市民公開講座も予定している。

(6)C 委員より情報提供

高齢者だけの問題ではなく、若い世代も病院へ行きたくても行けない人がいる。先日、大学生で、熱発し、移動手段が自転車だけしかなく、受診できず困っている人に対し、往診にて対応した。地域で困っている人がいたら、医師会の在宅支援チームで介入するので、医師会へ連絡してほしい。

**【次回の会議】** 令和5年3月8日（水） 19：00～ 高松市医師会館